

江北の四季

令和3年

2月11日

第43号



○オオイヌノフグリ(犬の陰囊)

草花の先頭に立って咲き出したのはオオイヌノフグリです。立春を過ぎたところから日だまりで、地面を這うように育ってきました。五月頃までは次々と花を咲かせ、地面一面に青い花が広がる様子はとても美しく、庭の園路を飾ってくれます。

日本には在来のおオイヌノフグリがありました。オオイヌノフグリは明治時代に渡来した帰化植物。フグリとは陰囊(いんのう)のことで、実の形がそれに似ていることから名付けられました。別名が「星の瞳」と呼ばれるように、きれいな青色をした可憐な花です。英名では bird's-eye(鳥の目)と cat's-eye(猫の目)と 言うそうです。

○二十四節気は雨水(うすい)。二月十八日(三月四日)。

七十二候は第四候、土脉潤起(つちのしよ ううるおいおこる)。

空から降るものが雪から雨に変わり、雪が溶けて水になる。春の雨は、大地を潤し始める。

この頃になると、雪がちらつくこともありませんが、すぐに消えていき、三寒四温を繰り返しながら、春に近づいていきます。暖かい雨が降るたびに、山茱萸や梅の蕾が膨らみ開花していきます。



クリスマスローズ
寒い中、2月初めに顔を出していました。嬉しいですね。

○日本語には美しいことばがたくさんありますが、四季を通じて「雨」を表すことばも多いですが、この時季の恵みの「雨」を表すことばは心を温かくしてくれます。

雪解雨(ゆきげあめ)

催花雨(さいかう)

養花雨(ようかう)

四温の雨

三寒四温のあたたかな四温のときに降る雨
草の雨

春、萌え出た草の葉にふりかかる雨

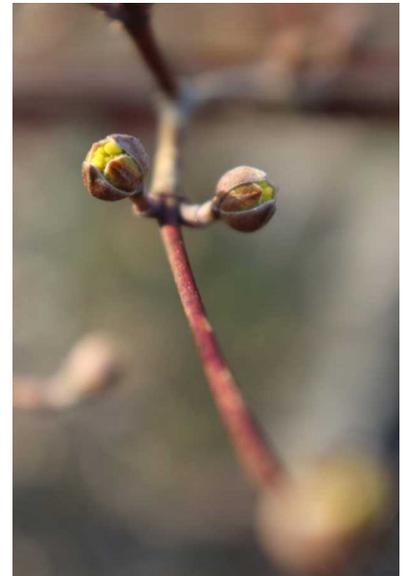
春風膏雨(しゅんぷうこうう)

春のやわらいだ風と万物をうるおす雨

○学問の神様として知られる菅原道真公を祀る京都の北野天満宮では、梅苑が公開され、二月二十五日の道真公の祥月命日には約九百年の歴史がある梅花祭が行われます。県内では叶匠壽庵の本社である寿長生の郷(大津市大石龍門)の梅林が有名です。散策した後の甘味は身にも心にも栄養を与えてくれそうです。現在では花見と言えれば桜ですが、奈良時代までは花見と言えれば梅を鑑賞していました。艶やかな平安の人々の感性も素晴らしいですが、寿長生の郷の白梅で万葉の人々の心に触れるのもいいかもしれません。

ひなまつり
○雛祭が近いですが、雨水の日(今年は二月十八日)にひな人形を飾り始めると良縁に恵まれるとも言います。これは、本来は厄を移した人形を水に流していたのが、雛祭りの始まりだからだそうです。雛祭りが旧暦の三月三日(今年は四月十四日)のときはこれで行ったのですが、新暦の三月三日では飾る時間が短いので、立春のころに飾る人が多いようです。我が家では二月はまだ寒くその気にならないので、新暦の三月三日に飾り旧暦の三月三日に片付けています。

♪着物をきかえて 帯しめて
今日はわたしも はれ姿
春のやよいの このよき日
なによりうれしい ひなまつり♪



庭の山菜萸(蕾はまだ堅い)

☆サンシユ(山菜萸)

別名は、春先に葉が出る前に黄色い花を咲かせるので、ハルコガネバナ(春黄金花)、あるいは、秋につけるグミのような赤い実を珊瑚にたとえて、アキサンゴ。赤い実は食べられますがおいしくはありません。干したものは生薬として使われます。

サンシユは矯めが効きやすく、生花の稽古にもってこいの花木です。曲げてもねじつてもまず折れることはありません。庭の山菜萸はまだ咲いていませんが、室で早咲きさせたものが一本二百円で売られていたので、六本買ってきて生花を三種類生けしました。切り残った枝の大きいものは地藏さんと仏壇に入れ、残りの小枝は一輪差しとなりました。お買い得です。サンシユは若い枝と古い枝では枝振りの違いが面白く、上手に使うと味わいのある花になるはずですが、………。今回は花材のせいにしておきましょう。



先ずは左体の稽古

残念ながら作為が出てしまいました。自然な花にするのは難しい。



面白い枝を見つけて

自然の枝をほぼそのまま使ってみました。



二重立ち上り

最後は二重生け。体用のひねた枝の花が足りませんでした。余分に買っておけば！